

SHIRAKOBATO

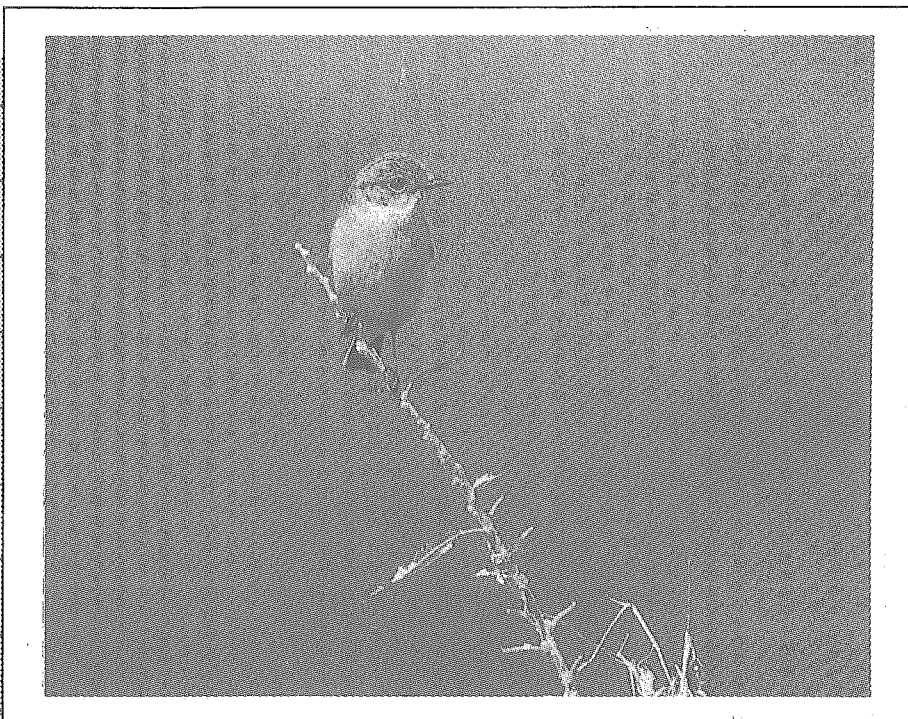
しらこぼと



1993. 9

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 113

日本野鳥の会 埼玉県支部

東浦和のアオバズク近況

佐久間孝夫（浦和市）

JR東浦和駅から歩いて3分のところにある大間木氷川神社で古くから繁殖している、有名なアオバズク。毎年5月～8月、休日ごとに通って、写真を撮り続けてきた。

今年5月、7年間撮りためた写真に、若干の観察記録と、アオバズクを見守る人々の点景を添えて、ささやかな写真集『アオバズク物語』を出版した。

本を出したあと、なぜか急に、これまでにないアオバズクにまつわる出来事や情報に出くわしている。

《火事にもめげず無事に巣立ち》

出版の作業を終え、ほっとして今年の巣立ちを待っていたら、とんでもない事件がもちあがった。アオバズクが毎年営巣する大間木氷川神社の社殿が、7月7日（水）の夜、不審火で全焼してしまったのだ。全焼した社殿は、営巣木から10m弱しか離れていない。今年は6月20日の日曜日に、親鳥が卵のカラをくわえ出しているのが確認されているから、7月15日ごろが巣立ちを予想していた、ちょうど1週間前の出来事だった。

翌7月8日早朝連絡を受け、とりあえず飛んで行ってみた。現場検証のロープがはりめぐらされ、外からのぞくしかなかったが、焼け落ちた社殿の周囲の樹は、まっ赤に焼けただれ、営巣木のスタジイも、社殿に近い側の葉は茶色に変色していた。ロープの外からは、アオバズクがいるかどうかを見ることができなかったが、その日の午前9時ごろ、地元の方が境内に入り、いつものところにとま

っていた、と知らせてくれた。7月9日、筆者もオス・メスとも枝にとまり、日没から巣穴に餌運びを開始し、巣からヒナの声が聞こえるのを確認した。

7月17日には2羽の巣立ちヒナを確認し、7月24日にはヒナ4羽が出そろい、今年も火事にめげず、無事に巣立ちを終えた。

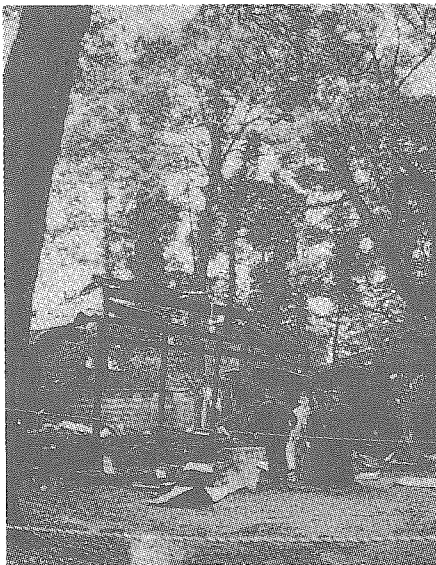
火事が、抱卵開始前後や、孵化直後の不安定な時期であれば、どうなっていたかわからない。巣立ち1週間ほど前の、親鳥が子育てのため、少々のことであっても巣から離れない時期になっていたことが、不幸中の幸いだった。それでも、巨大な火災にあぶられた当夜の恐怖は、想像にあまりある。事件の翌々日の夕刻、親鳥の餌運びが始まり、ヒナの特徴ある「リーン・リーン」とも「ジー・ジー」とも聞こえる声は巣穴から聞こえてきたときは、心底ほっとした。

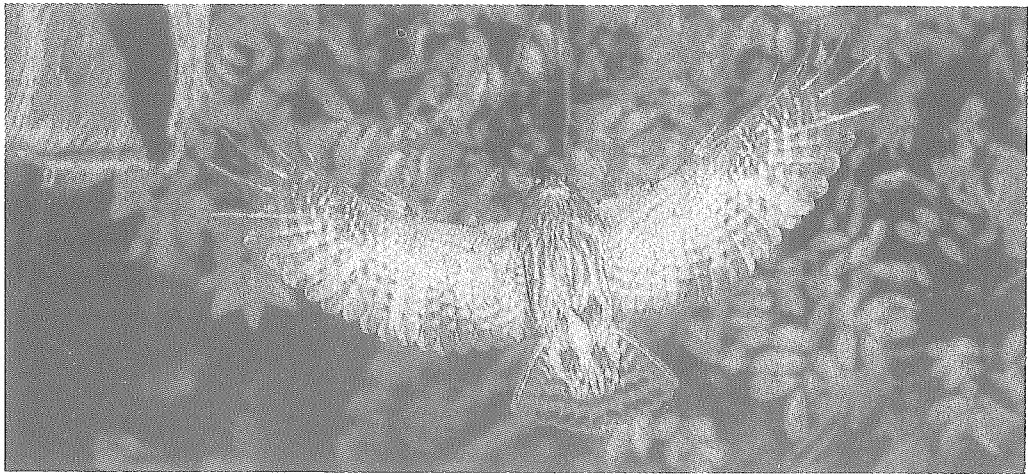
今年無事に巣立ったことで、来年もまた来てくれることを信じていた。

《成鳥3羽の妙な組み合わせ》

出版を契機に、見知らぬ方から連絡をいただくことも多くなった。小田原でニューナイスズの越冬地の保全に努力されている頼さんという方から、「ひとつの巣穴に3羽の成鳥が出たり入ったりする、へんなアオバズクがいる」という連絡をいただいた。別にアオバズクの専門家になったわけでもないが、珍しいもの見たさに、小田原まで出かけてみた。

東浦和の神社よりさらに小さな神社。営巣木は太いケヤキの独立木。幹が地上18mほどのところで折れ、そのてっぺんにウロがあった。5mほど離れた杉の枝でオスが見張りをしている。昼間だったので、3羽をまとめて見ることはできなかったが、日没近くなるとメスが巣穴から出、さらにもう1羽がどこからかやってきて、3羽が同時にそろろうとのこ





と。3羽同時にいるところを何人もで確認している。5月上旬から7月上旬にかけての詳細な観察メモも見せてもらったが、3羽が交代で巣穴に出入りしたり、1羽が巣穴に入っているとき、別の2羽が近くで空中戦をやるらしい。東浦和で観察してきた常識からみて、どうもよくわからない。

オス・メスのペアに、もう1羽、伴侶を獲得しそなったオスがまとわりついているようにも思える。バンの子育てヘルパーの話は有名だが、アオバズクのこんな組み合わせの話は聞いたことがない。似たような事例をご存知の方がいたら、ぜひご教示ねがいたい。

【繁殖に「樹洞」が絶対必要か】

アオバズクの渡来・繁殖には、一般的には営巣木・樹洞の存在が欠かせない条件といえる。過去アオバズクが渡来したが、今は声を聞かないという場所は、ほとんど樹洞のあった大木が伐り倒されたためである。

現在営巣しているところでは、どんな樹種で、地上何mくらいのところが多く、（これが一番知りたいのだが）どんな形の樹洞が好まれており、樹洞のある営巣木の周囲の環境に、何らかの共通点があるのではないかと

などなど、知りたいことが山ほどある。これらの情報が蓄積されれば、アオバズクの営巣地保全に、大いに役立つと思うのだが……。

「樹洞」が絶対条件かといえは、そうでもない事例が最近ふたつ目についた。

ひとつは山口県の事例。1974年、コンクリートづくりの山口博物館の軒の棚に営巣。そののち1986年、1987年にも、少し場所を変えて同じコンクリートの軒の棚で繁殖。その後この軒の棚にはドバトが侵入し、アオバズクは営巣しなくなってしまったという（9月刊予定『夏鳥たちの歌は、今』山口市・三宅貞

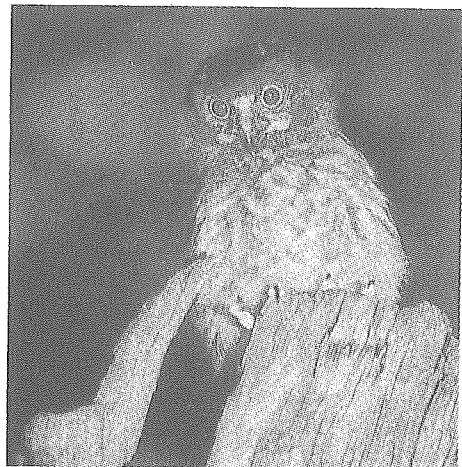
敏氏のレポートによる）。

もうひとつは、沖縄の名護市の例。山林に囲まれた集落なのだが、一軒の農家のコンクリートづくりの車庫の軒下の棚に、8年連続して営巣し、今年も無事に2羽のヒナが巣立ちしたという記事が、写真つきで7月11日付けの琉球新報に載っていた。

アオバズクにとっても、大変な住宅難なのだろう。一体どんな条件が最低限満たされれば、住宅の近辺だろうとコンクリートの軒下だろうと、営巣するようになるのだろうか。

Jリーグで大にぎわいの浦和市・駒場サッカー場の近くでも、アオバズクの声が聞こえるが、樹洞のある大木がみあたらない。ここのアオバズクも、もしや妙なところを住まいにしているのではあるまいか。

佐久間孝夫＝写真・文／高瀬一也＝写真
協力『アオバズク物語』は、高文研刊、
定価 2,266円。支部事業部で取扱い中。



1993年春 シギ・チドリ類調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

日時：1993年4月29日

1993年春 シギ・チドリ類調査結果

AM9:30～11:00

大久保農耕地

AM9:00～10:30 入間川

AM9:30～12:00 利根川

天候：雨

4月29日に埼玉県内のシギ・チドリ類の一斉調査が行われました。

この日は前線が南岸沿いに停滞し、この前線を低気圧が東北東に進んだため、あいにくの雨になってしまいました。支部会員21名のご協力が得られました。

観察された種類数・個体数は、15種・672羽で、昨年の春と比較すると種類数では3種多くなっています。これは、昨年観察記録のなかった阪東大橋下流が加わったためです。（執筆 石井 智）

調査地	大久保農耕地			入間川・豊水橋～新富士見橋			利根川
	浦和市/大宮市			狭山市			本庄市
鳥種	'91	'92	'93	'91	'92	'93	'93
コチドリ	1	4	-	1	2	1	16
イカルチドリ	-	-	-	-	3	1	8
シロチドリ	-	-	-	-	-	-	14
メダイチドリ	-	-	-	-	-	-	1
ムナグロ	474	386	381	-	-	-	1
ダイゼン	-	-	-	-	-	-	1
トウネン	-	-	-	-	-	-	1
ウズラシギ	1	1	-	-	-	-	-
ハマシギ	1	-	24	126	41	6	138
アオアシシギ	2	1	7	-	-	-	2
クサシギ	-	-	-	-	-	-	2
タカブシギ	4	6	6	-	-	-	-
キアシシギ	-	-	-	1	-	-	-
イソシギ	-	-	-	6	7	6	17
チュウシャクシギ	3	1	13	-	-	-	-
タシギ	43	36	21	1	-	-	3
ジシギSP.	-	3	2	-	-	-	-
シギSP.	-	5	-	-	-	-	-
個体数合計	529	443	454	135	53	14	204
種数合計	8	9	7	5	4	4	12

*利根川（阪東大橋）の '91・'92年のデータはありません。

地鳴きコーナー

■オオアカゲラ騒動記

佐藤 進（大宮市）

平成4年12月中旬、北本市石戸宿の雑木林で、オオアカゲラが発見されました。その後も継続して観察されて、平成5年3月に入ると広く知られるようになり、夕方になると大勢の愛鳥家が集まるようになりました。

土日には、20～30名にもなるのです。雨の日でも傘をさし、持ち寄った茶菓子を分けあって、オオアカゲラが現れるのを待ちます。神奈川、東京からも来るようになり、4月に入っても続きました。

オオアカゲラは、大勢の時も余り恐れず、ねぐらの近くの、木から木へ、ケヨッ、ケヨッと鳴きながら飛びあるき、ドラミングをしたり、羽づくろいをして、10分位後にねぐらの穴に入ります。

暫くして、このオオアカゲラはかご抜けであるという噂が写真家の間に広まり、「たかがかご抜けではないか」と言って、フェンスを乗り越え、ねぐらの直前にカメラをセットして、ストロボ撮影する者まで現れました。

ねぐらに入ろうとしてストロボをたかれ、驚いたオオアカゲラは狂ったように飛び回

り、アカゲラのねぐらに飛び込んでしまいました。後でねぐらに帰ってきたアカゲラに追い出され、林の中に逃げ込み、梢で身を縮めて暫くジーとしていました。日が沈み、暗くなってからようやくねぐらに戻るまでその状態は続きました。

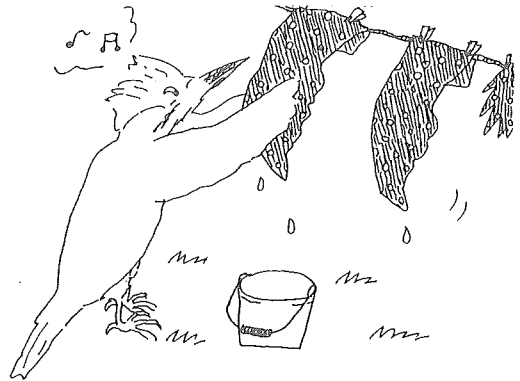
13名位いた観察者たちはその非常識にブーブでした。その人はさすが小さくなって帰りました。

その後も不心得者が何人か来て、そのつど注意しましたが、オオアカゲラがねぐらに入り、観察者が帰ってから、ストロボとカメラを用意する者までいました。

ある日、老カメラマンが私に挨拶しながらカメラをセットしました。そして、夕方になり、そろそろオオアカゲラが帰ってくる頃に帰り支度を始めたのです。これからですよと言うと、「撮れても、良いものは撮れないから、失礼します」と、笑いながら頭を下げた帰りました。良識あるカメラマンもいる事に、ほっとしました。

オオアカゲラは、4月13日午後6時にねぐら入りしたのを最後に、その後は帰ってきませんでした。きっと山に帰ったのでしょう。かご抜けではない、野鳥の証明ができたのではないかと私は思います。

この40日間、オオアカゲラを通じて、たくさんの人々との出会いがありました。



(押川歳子)

白頭鷺の英名講座 第8回

フライキャッチャーのフライングキャッチ

秋の人気者、つぶらな瞳のヒタキ類。総称して英名では“Flycatcher”つまり、「ハエを捕る鳥」とよびます。

代表選手のサメビタキ、コサメビタキ、エゾビタキなど、皆すばらしいフライングキャッチの名手です。見通しの良い梢に直立の姿勢で待ち伏せて、近くを通る虫を発見するや、サッと身をひるがえして見事なフライングキャッチを見せてくれます。

もともと虫を捕食するのは、ほとんどの鳥がする事ですが、ヒタキ類の場合、そのフライングキャッチ (Flying Catch) のパフォーマンスがあまりにも見事で、しかもかなりの頻度で人の目につくので、印象にのこるでしょう。

偶然の一致で、フライキャッチャー (Flycatcher) がフライングキャッチ (Flying catch) をするのですが、前者のFly は、ハエ

またはハエのような昆虫類を指しており、後者のFly は、“飛ぶ”という動詞から来ています。

日本の鳥で“Flycatcher”の名のつくものを図鑑から拾ってみると、

コサメビタキ	Brown Flycatcher
サメビタキ	Sooty Flycatcher
エゾビタキ	Gray-spotted Flycatcher
オオルリ	Blue-and-White Flycatcher
サンコウチョウ	Black Paradise Flycatcher
ムギマキ	Mugimaki Flycatcher
キビタキ	Narcissus Flycatcher
オジロビタキ	Red-breasted Flycatcher

フライングキャッチで虫捕りの名人、フライキャッチャーを覚えましょう。

ムギマキなんて、そのまま Mugimaki で外人さんにわかるんでしょうか？



ツミ ◇5月9日、大宮市日進町1丁目でも1羽。太目の横枝にじっととまっていた。赤い目でにらまれる(浅見健一)。

ハイタカ ◇5月3日、花園町武蔵野の上郷地区で1羽(小淵健二他4名)。

ノスリ ◇5月3日、寄居町の鐘撞堂山で2羽(長谷部謙二)。

クイナ ◇5月7日、浦和市秋ヶ瀬の桜草公園で1羽。まるまる太った夏羽1羽。じっくり見ることができた(有山智樹)。

ハマシギ ◇5月15日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で夏羽12羽(中司隆由)。

アオアシシギ ◇5月5日、浦和市塚本、荒川左岸の田んぼでムナグロ群れ中に3羽(中司隆由)。

キアシシギ ◇5月7日、幸手市下吉羽の田んぼで20羽(秋間利夫)。◇5月15日、志木市の柳瀬川、高橋～栄橋間で3羽(中司隆由)。

オグロシギ ◇5月4日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。

チュウシャクシギ ◇5月4日、深谷市の上武大橋下流で1羽(井上幹男)。◇5月7日、杉戸町戸島で3羽(秋間利夫)。

ダイシャクシギ ◇5月5日、浦和市塚本、荒川左岸の田んぼで尻の白いダイシャクシギ1羽。ムナグロの群れのそばを悠然と歩く(中司隆由)。…写真なし

オオジシギ ◇5月5日、所沢市の航空記念公園裏、管制塔原っぱで1羽(滝田美恵子、羽村淳、鈴木洋子)。

アジサシ ◇5月14日、川越市の伊佐沼で十数羽(中司隆由)。

コアジサシ ◇5月5日、浦和市昭和、荒川左岸の田んぼの畦で1羽(中司隆由)。

カッコウ ◇5月1日、熊谷市大麻生の野鳥の森で1羽(菱沼一充・洋子)。

ツツドリ ◇5月3日、花園町武蔵野の上郷地区で1羽(小淵健二他4名)。◇5月7日、戸田市道満の釣り堀横の林で1羽。のどをふくらませて鳴く(有山智樹)。

アオバズク ◇5月10日午後7時頃、鴻巣東小学校のケヤキの大木で鳴いていた(内藤義雄)。

ヒメアマツバメ ◇5月4日、狭山市の入間川豊水橋付近で約30羽(石井幸男)。◇5月5日、所沢市の航空記念公園裏の管制塔原っぱで5～6羽(滝田美恵子、羽村淳、鈴木洋子)。

アオゲラ ◇5月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(長谷部謙二)。

アカモズ ◇5月13日、戸田市道満の釣り堀の駐車場で1羽(高橋達也)。

サンショウクイ ◇5月5日、浦和市上野田のさぎ山記念公園で1羽(鈴木啓紀)。◇5月15日、桶川市若宮の自宅上空を北へ1羽。「ピリリーン、ピリリーン」とさえずりながら飛んでいった(立岩恒久)。

マミジロ ◇4月25日、浦和市秋ヶ瀬公園の子供の森で1羽(鈴木啓紀)。

アカハラ ◇5月7日、秩父市の羊山公園で1羽。盛んにさえずる(山岸昭治)。

シロハラ ◇5月4日、狭山市の入間川豊水橋付近で1羽(石井幸男)。

ツグミ ◇5月7日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。

ヤブサメ ◇4月22日～5月4日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽。竹やぶ内でじっとしていると必ず見られた(小島健、有山智樹)。◇5月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(嶋田和江)。

メボソムシクイ ◇5月9日、上尾市の大宮ゴルフコースの森で1羽。若葉の中でさえずっていた。(立岩恒久)。

エゾムシクイ ◇5月4日、上尾市の丸山公園で1羽。さえずる(菱沼一充・洋子)。

センダイムシクイ ◇5月4日、上尾市の丸山公園で3羽(菱沼一充・洋子)。◇5月4日、戸田市氷川町の氷川神社で1羽(高橋達也)。◇5月4日、戸田市新曽の観音寺で1羽(高橋達也)。◇5月4日、戸田市上戸田の後谷公園で1羽(高橋達也)。◇5月4日、戸田市道満の釣り堀横の林で3羽(駒崎政雄)。

キクイタダキ ◇4月21日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で1羽(有山智樹)。

キビタキ ◇5月3日、秩父市美の山で♂1羽(山岸昭治)。◇5月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(嶋田和江)。◇5月4日、戸田市新曽の観音寺で♀1羽(高橋達也)。◇5月4日、戸田市新曽の妙顕寺で♂1羽(高橋達也)。◇5月4日、上尾市の丸山公園で♂1羽。桜の木からへたなさえずりが聞こえてきた。近づいても逃げずに虫を取って食べたり、さえずりの練習をしたり1時間近くも楽しませてくれた(菱沼一充・洋子)。◇5月5日、大宮市片柳の熊野神社で♂1羽(工藤洋三)。◇5月8日、吹上町の自宅の庭で♂1羽。美しい姿と声を十分楽しませていただきました(逸見嶮)。◇5月9日、上尾市の中分氷川神社の森で2羽(立岩恒久)。

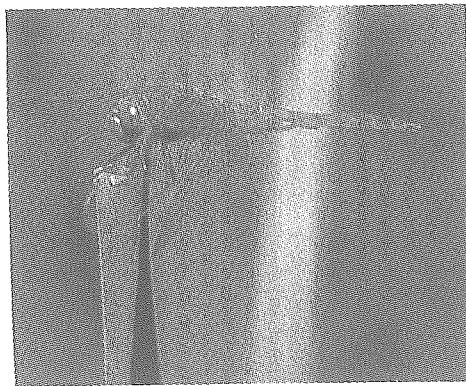
オオルリ ◇5月3日、寄居町の鐘撞堂山で♂♀各1羽(手塚正義)。◇5月3日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂♀各2羽(駒崎政雄)。

サンコウチョウ ◇5月15日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で♂♀各1羽。♂は良くさえずり、長い尾をひらめかせながら林内を飛ぶ(有山智樹)。

コサメビタキ ◇5月7日、秩父市の羊山公園で1羽(山岸昭治)。◇5月12日、JR桶川駅西口公園の森で1羽。時々「クリッ、クリッ」と声を出し、羽をふるわせていた(立岩恒久)。◇5月16日、鴻巣市人形4丁目の林で2羽(内藤義雄・洋子)。

シジュウカラ ◇5月4日、上尾市の丸山公園で、こわれた焼却炉の煙突の中で子育て中(菱沼一充・洋子)。

ノジコ ◇5月1日、浦和市秋ヶ瀬のピクニ



ショウジョウトンボ (登坂 久雄)

ックの森で1羽。クヌギの高木の樹冠部で採餌していた。白いアイリングとくちばしのブルーを確認(海老原美夫、有山智樹)。
クロジ ◇5月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(手塚正義)。

アトリ ◇5月8日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で♀1羽(有山智樹)。

マヒワ ◇5月3日、寄居町寄居で約20羽(石井幸男)。◇5月7日、秩父市の羊山公園で約20羽(山岸昭治)。

イカル ◇5月2日、桶川市若宮の自宅ベランダ前のメタセコイヤの木で1羽。美しい声で「イーコイルー」とさえずる。(立岩恒久)。◇5月3日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(長谷部謙二)。◇5月8日、上尾市井戸木の杉の木で1羽(立岩恒久)。

シメ ◇5月7日、秩父市の羊山公園で1羽。いつまでいるのだろう(山岸昭治)。

コムクドリ ◇5月3日、浦和市秋ヶ瀬の子供の森で7羽(駒崎政雄)。◇5月4日、狭山市の入間川豊水橋付近で約20羽(石井幸男)。

カケス ◇5月3日、浦和市秋ヶ瀬のピクニックの森で2羽(駒崎政雄)。

表紙の写真

ネイチャーフォトコンテスト1992 入選作

ノビタキ (ヒタキ科ツグミ亜科)

9月のなかば頃になると、平野の河原などの開けた草地で、ノビタキを見ることが出来ます。ノビタキを探して秋の河原をほつき歩くことが、私の年中行事のひとつになっています。

目がクリクリと大きく、かわいらしい鳥なので、好きな人も多いと思います。

こんな小さな体のどこに、海を越えて渡りをする力を秘めているのでしょうか。

登坂久雄(八王子市)

行事あんない



本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：9月5日（日）

集合：午前9時 JR高崎線本庄駅北口
（集合後、現地までバス利用）

交通：大宮7:41（赤羽7:27→浦和7:35→熊谷
8:24）発の普通に乗車

担当：町田、菱沼、小淵、小野沢

見どころ：今年の春のシギ・チドリは大当り。そっくりそのままリターンしてくれば……と、世界中の神様をお願いしたいところ。ツバメたちと赤とんぼの華麗な競演も見もの。あとは、お天気とあなたの心がけ次第。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：9月11日（土）

集合：午前8時 浦和駅西口バスロータリー
集合後、バスで現地へ。

担当：福井、海老原、楠見、草間、小林（み）、伊藤、笠原、嶋田、羽石

見どころ：秋の野の花に彩られた大久保農耕地。シギ・チドリやノビタキを求めてのんびりと畔道をたどります。木立があったら、一時停止。旅の途中のヒタキ類、ホトトギス類を探してみましよう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月12日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:20発または寄居9:03発に乗車。

探鳥会への参加は、特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。受付は探鳥会当日。参加費は一般100円。会員及び中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。小雨決行です。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時ごろになります。

◇はじめて探鳥会に参加される方へ◇

集合場所へ着いたら、まず“日本野鳥の会埼玉県支部”の旗か、青い腕章をつけた担当者を探して、遠慮なく声をおかけ下さい。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

担当：菱沼（一）、森本、佐久間、関口、菱沼（洋）、斉藤、塚本、中島（章）

見どころ：涼さを運ぶ使者たち。まだまだ残暑きびしい大麻生ですが、北国から山から小さな使者たちが涼風を運んでくる季節。さあ、あなたも双眼鏡を持って出かけよう！

秋のシギ・チドリ類県内一斉調査

期日：9月15日（水・祝）

当支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の県内一斉調査を行なっています。下記の地点の調査に、ご協力お願い致します。

*秋ヶ瀬（浦和市・大宮市）

集合：午前9時30分 大久保浄水場の北西角
近くの土手の上、水門のあたり。

担当：石井、登坂

解散は昼頃の予定。雨天決行。参加費無料。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：9月19日（日）

集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東口（集合後、バスで現地へ）または、午前9時 浦和市立郷土博物館前

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、渡辺、手塚、伊藤、笠原、田口、馬場、岡部、嶋田

見どころ：一面の稲穂、上空をサシバが飛ぶ（運が良ければ）。芝川には、渡りの途中のシギ・チドリ、帰ってきたコガモ。さあ、見沼たんぼに秋が来たぞ！

寄居町・鐘撞堂山探鳥会

期日：9月23日（木・祝）

集合：午前9時 寄居駅北口

交通：東武東上線川越7:58→小川町乗継ぎ→
寄居8:51/秩父鉄道熊谷8:22→寄居
8:53

担当：田口、松井、岡安、内藤、榎本

見どころ：ワシタカファン待望の渡りの季節。
伊良湖遠征もいはいけれど、身近な低山
から眺めるタカ柱も、また格別。困難
な旅を続けるタカたちに、山頂から熱
い声援を送りましょう。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月25日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：今、どこでどんな鳥が出ているのか、
気になる方は事務局へ。いろんな野鳥
情報、教えてあげます。そのかわりに、
と言っちゃ何だけど、ちょこっと
お手伝いしてくれると嬉しいのですが
……。

野鳥写真クラブ定例会

とき：9月25日（土）午後2時ごろ～5時

会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ

案内：ネイチャーフォトコンテスト、もう応募
しましたか？会心の作を得て大満足
の方も、ちょっと後悔している方も、
定例会で楽しく勉強を続けましょう。

入間川定例探鳥会

期日：9月26日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:42または所沢8:39
に乗車。

担当：長谷部、三田、石井（幸）、佐久間、
柳原、小野、山本、中村（祐）

見どころ：渡りの季節です。稲荷山公園でヒ
タキの仲間を探してみましよう。「な
んだスズメか」なんて言わずによく
見てみると、意外な鳥だったりして…
…。

タカの渡り調査

期日：9月26日（日）

恒例の調査です。一日、空を眺めているだ
けで、貴重なデータが得られます。初めての
方も、お気軽にどうぞ。雨天（小雨でも）中
止、この場合10月3日に延期します。参加費
無料

◆天覧山（飯能市）

集合：午前9時から正午まで、ご都合のよい
時間に山頂展望台へお越し下さい。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩30分

担当：三田

他に下記の地点で調査します。

◆鐘撞堂山（寄居町）：山頂

◆堂平山（都幾川村）：天文台下の駐車場

◆物見山（東松山市、鳩山町）：山頂展望台

◆堀之内（所沢市）：早稲田大学そば

調査時間は朝から正午過ぎまで。お近くの
方、ご都合のよい時間にお手伝い下さい。

奥日光探鳥会（日帰り・要予約）

期日：11月13日（土）

集合：午前7時30分 大宮駅東口あさひ銀行
前

交通：貸切りバス

費用：7,000円程（交通費、保険料、参加費）

定員：40名（先着順、県支部会員優先）

担当：中島（康）、松井、福井、草間

申込み：通常葉書に住所・氏名・年齢・電話
番号を明記の上、中島康夫

まで。定員に達
し次第、締め切ります。どうぞお早め
に。

10月3日（日）差間探鳥会

石戸宿定例探鳥会

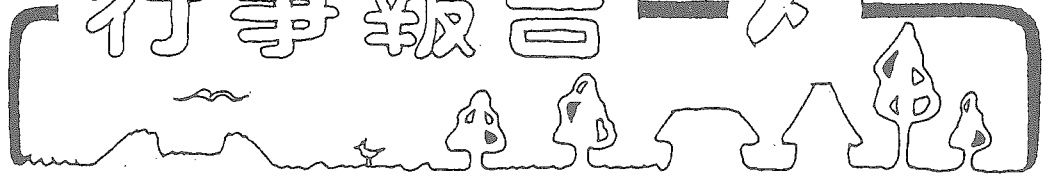
10月10日（日・祝）大麻生定例探鳥会

10月11日（月・振休）渡良瀬遊水池探鳥会

10月17日（日）三室地区定例探鳥会

探鳥会参加者名簿に、バードソン『埼玉レ
ッズバーダー』チーム応援申し込み欄をつく
りました。ご利用ください。

行事報告



2月7日(日) 群馬県 農妙藝

参加: 41人 天気: 曇時々雨時々晴

オシドリ マガモ カルガモ トビ クマタカ イヌワシ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ジョウビタキ ツグミ キクイタダキ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ウソ シメ ニュウナ イスズメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 太陽も青空も顔をのぞかせているのに雨。それもかなりの降り方。天気雨を“キツネの嫁入り”というが、このシツコイ雨は、集団結婚というべきか。稜線の上に大型のワシタカ類出現。皆の顔がパッと輝く。「イヌワシだ!」「あれ??何か変だな。」結局、クマタカだった。先入観で目が曇っていたようだ。もちろんイヌワシも国民宿舎前の大岩の頂に、その勇姿を見せた。例年イヌワシを見ながら国民宿舎の庭でお弁当を食べるのだが、雨のため食堂を利用。食堂使用料一人300円。余計な出費をさせてごめんなさい。担当リーダーの中に“雨女”がいるのが悪いです。(小林みどり)

3月28日(日) 神奈川県 三浦半島・城ヶ島

参加: 29人 天気: 雨

ウミウ ヒメウ クロサギ トビ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ イソヒヨドリ ツグミ ウグイス メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (20種) “ウミウ展望台”から、絶壁にへばりついたウミウの群れを見る。この中からヒメウを探しだすのは意外に骨が折れる。あきらめようかと思った頃に、やっと飛んできた。クロサギも何度か姿を見ること

ができた。時折、聞こえてくるウグイスの囀り。これで天気が良ければ最高の気分なのだが……。どなたか“雨女治療法”ご存じありませんか。(小林みどり)

4月18日(日) 浦和市 三峯地区

参加: 64人 天気: 晴

コサギ カルガモ コガモ オナガガモ シハジロ バン チョウゲンボウ コジュケイ キジ コチドリ タカブシギ タシギ ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 新しい参加者が多く、鳥見人も新年度の4月から新しいスタートを切りました。後援いただいている浦和市立郷土博物館の館長さんも、河辺先生から桑野先生に代られました。河辺先生ありがとうございました。(楠見邦博)

4月23~25日(金~日) 東京都 三宅島

参加: 23人 天気: 曇一時雨

オオミズナギドリ カツオドリ ウミウ ヒメウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ ミサゴ トビ サシバ コジュケイ キジ ムナグロ アカエリヒレアシシギ セグロカモメ ウミネコ ミツユビカモメ ウミスズメSP カラスバト キジバト アオバズク コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コマドリ ノビタキ イソヒヨドリ トラツグミ アカコッコ ツグミ ウグイス イイジマムシクイ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ アオジ カワラヒワ

マヒワ スズメ ハシブトガラス (51種) いつもハードスケジュールになりがちな三宅島探鳥会だが、今回は天候の変化を見定めながらのゆったりした日程となる。それでも三宅島ならではの野鳥はひと通り出てくれて、参加者一同大いに満足。ところが、帰りの船上探鳥が大はずれ。海上は強風が吹き荒れ、大揺れの船内では探鳥どころではない人もあったようだ。島の自然、海の幸、鳥仲間とのひとときなどを、良い思い出として頂ければ幸いである。なお、鳥合わせでトラツグミが漏れていた。これを含め出現鳥を51種に訂正して頂きたい。(榎本秀和)

4月24日(土) 『しらこぼと』袋つめの会
ボランティア: 13人

赤松義正、荒木恒夫、石井幸男、岩波勇一、海老原教子、海老原美夫、桜庭勇、馬場昇、藤野富代、山岡百合子、山崎一央、吉本冨美子、渡辺喜八郎

4月29日(木) シギ・チドリ類調査
ボランティア: 21人

荒木恒夫、石井智、伊藤芳晴、海老原教子、海老原美夫、小川祐一、奥山紀行、工藤洋三、佐久間博文、桜庭勇、新堂克浩、高草木泰行、津田、登坂久雄、広瀬洋子、橋口長和、福井亘、福井恒人、町田好一郎、三田長久、渡辺喜八郎、調査は、浦和市から大宮市にまたがる、荒川の河川敷(通称、秋ヶ瀬地区)、本庄市の阪東大橋下流、狭山市の入間川で行われた。参加者の皆さん、どうもご苦労様でした。

5月5日(水) 千葉県習志野市 谷津干潟
参加: 68人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ ミユビシギ キアシシギ イソシギ オオソリハシシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ セイタカシギ ユリカモ

メ コアシサシ キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) ラムサール条約で世間の耳目を集める谷津干潟に参加者多数でリーダーはうれしい悲鳴。春の渡りでにぎわう干潟を楽しんでいただきました。(杉本秀樹)

5月8~9日(土~日) 栃木県 奥日光
参加: 33人 天気: 曇、晴

マガモ コガモ キンクロハジロ トビ ケアシノスリ ノスリ オオジシギ アオシギ キジバト ツツドリ アマツバメ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ コマドリ ルリビタキ ノビタキ アカハラ ウグイス メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ ホオアカ アオジ イカル ニュウナ イスズメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 今回は例年より3週間早いため、夏鳥が出揃っているか心配だったが、3種のムシクイ類、キビタキ、ノビタキ、ホオアカ、コサメビタキなどを全員の方が見ることが出来た。青空をバックにソワリングするケアシノスリを見られるおまけまで付いた。数人の運の良い人はアオシギまで見てしまった。(中島康夫)

5月8日(土)~16日(日)
感性のバードウォッチング・野鳥画展
ボランティア: 19人

伊藤芳晴、海老原教子、海老原美夫、大嶋恵里菜、岡安征也、小淵健二、倉崎哲郎、佐久間博文、関口善孝、立岩恒久、塚本典子、中村治、林滋、菱沼一充、菱沼洋子、福井恒人、町田好一郎、森本國夫、吉原俊雄

10才の高橋亜悠子さんのクレヨン画からプロの画家・吉田博さんの油絵まで、幅広い作品約30点を展示。自然に接する「心」の大切さを訴えた。ご協力ありがとうございました。

連絡 中長

●本部会費の値上げ決定

全国支部のアンケート回答結果なども踏まえて、5月の理事会で検討し、1,000円値上げが決まりました。

正会員は、来年3月会費切れの方から、本部会費が5,000円、支部会費は2,000円(従来通り)、計7,000円となります。普通会員の年会費2,500円は変わりありません。

新入会者は、本年10月から新会費が適用されます。つまり、9月までは6,000円(入会金500円)で正会員になれるのですが、2年目からは7,000円になります。

今回の値上げによる負担を少しでも軽くするため、終身会員制度も検討されています。

●今年も「黒田会長カラス組」

昨年に引き続き、今年のバードソンにも「黒田会長カラス組」が出演します。当支部代表は松井昭吾支部長。黒いカラスや白いカラスに会いたい方は、10月31日(日)午前8時、明治神宮北参道鳥居前(JR代々木駅から徒歩10分)にお集まりください。

支部の公式チーム「埼玉レッズバーダー」の応援もよろしく。

●自然学習センターで話し合い

北本市の埼玉県自然学習センターでは、自然観察公園の保全と利用のあり方についての意見を聞くための会議を、自然保護関係5団体に呼びかけました。

7月31日(土)に開催された第1回会議に、当支部からは内藤義雄・吉原俊雄両幹事が出席、意見を交換しました。引き続き第2回目の会議も予定されています。

●自動車会社のバードウォッチングスクール

埼玉三菱自動車販売(株)主催のバードウォッチングスクールが、8月1日(日)午前6時30分から9時まで、熊谷市大麻生野鳥の森を会場に開催され、100人あまりの参加者が集まりました。

4駆車公害なども議論されている今、積極的にフィールドマナーを浸透させる機会としてとらえ、支部からは、中島康夫普及部長と楠見邦博・菱沼一充両幹事の3名がリーダーをつとめました。

●ネチャーフォトコンテスト 1993 締め切り迫る

募集期限は9月10日まで。前月号「応募方法」のうち、「20字くらいのコメント……」とあるのは、「200字」の誤りでした。ごめんなさい。

●9月の土曜日当番(2時~6時)

- 4日 伊藤芳晴 小野光明
- 11日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 18日 笠原伸子 川島正治(校正の日)
- 25日 袋づめの会(1時から)

●会員数は

8月2日現在 2,293人です。

活動報告

- 7月17日 研究部会議。編集会議。
- 7月18日 役員会議(司会・手塚正義、あさひ銀ユニオンクレジット会員向け探鳥会への対応・北本自然観察公園の意見交換会・秋のパネル展・その他)。
- 7月24日 8月号校正作業。
- 7月30日 熊谷市役所記者クラブで、『埼玉見て歩き・県北版』発刊の記者会見(海老原)。

編集後記

久しぶりに事務局に来てみたら、「よく来たよく来た。さあ、編集後記でも書いて行け」ということになってしまった、そう言われてみると、編集後記を書くのも実に久しぶり。日ごろ何も手伝わないから書く機会がなかったというのが本当のところだが、たまには書かないと名前を忘れられてしまうかも。というわけで、有意義(?)な盆休みの昼下がりととなった次第である。(榎本秀和)

『しらこぼと』1993年9月号(第113号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 東京9-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)

再生紙使用